

ポピュレーションアプローチの視点からの父親支援推進に向けた研修と  
その資材開発に関する研究

研究協力者 足立 安正 (摂南大学看護学部在宅看護学・公衆衛生看護学領域・講師)  
阿川 勇太 (大阪総合保育大学児童保育学部乳児保育学科・講師)

### 研究要旨

**背景：**健やか親子21(第2次)では、「こどもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」を基盤課題の一つに掲げ、「主体的に育児に関わっていると感じる父親の割合」を目標に設定している。しかし、研究班が2020年度に全国の自治体を対象に行った調査では、「主な対象を父親とした育児支援を実施した」のは54自治体(6.5%)に留まり、既存の母子保健事業内で実施している父親に対する育児支援についても、「特に実施していない」と回答したのは妊娠期の両親学級では29.4%、母子健康手帳交付時では30.0%、乳幼児健康診査時では80.5%となっており、父親に対して行われる公的な支援は少ない状況にある。そこで、本研究では現状の母子保健事業について、ポピュレーションアプローチの視点から父親を含めた家族全体に働きかける仕組みへと見直すための方法の一つとして自治体での職員向け研修に着目し、研修を実施する上での参考になるような資材を開発する必要があると考えた。

**結果：**第12回日本公衆衛生看護学会学術集会(2024年1月、北九州市小倉)で開催したワークショップの内容を参考に、研修の手引き案の作成を行った。作成案については研究班内でのディスカッションにより内容を吟味し、修正したものを完成版とした。完成した研修の手引きは「研修の概要」「研修の前提」「研修の企画」「研修の実施」「研修の資材」で構成し、研修に活用しやすいようにグループディスカッションに用いるワークシートやその際の問いかけ例も掲載した。

**考察：**今年度は研修の資材として手引きを作成した。来年度はこの手引きが多くの自治体で活用され、母子保健の取り組みの中に父親に対する支援も含める形で検討されることを目指している。そのためには多くの自治体に広くに認知されるよう発信に努め、そして、より使いやすく、効果的な研修の実施につながる内容にブラッシュアップしていくことが必要であると考えられる。

### 研究協力者

小崎 恭弘 (大阪教育大学健康安全教育系教育学部教員養成課程家政教育部門・教授)  
高木 悦子 (帝京科学大学保健医療科学部看護学科・准教授)  
丸山 佳代 (東京医科歯科大学大学院・保健衛生学研究科)

### A. 研究目的

わが国における「父親支援マニュアル」の作成にあたっては、そのマニュアルを活用するための人材育成も同時に重要である。そのため本研究の目的は、人材育成の一つの方法として研修の手引き(名称「父親支援に関する専門職へのポピュレーションアプローチの視点からの研修とその資材開発」)を作成することとした。

### B. 研究方法

本研究のプロセスは次のとおりである。

1. ワークショップの振り返りと研修資料の検討  
父親支援が必要な現状及び自治体での実施状況や課題を整理し、こども家庭科学研究の父親支援研究班が取り組んだ各種調査の結果を踏まえ、父親への支援としてこれからどのような取り組みができるかを考える機会とするために、第12回日本公衆衛生看護学会学術集会（2024年1月、北九州市小倉）にて「今 考えたい、父親への支援の現状とこれから」をテーマにワークショップを開催した。本ワークショップの内容を研究班内で振り返るとともに、使用したワークシートを参加者の同意を得たうえで回収・分析し、研修の手引き案の作成に活用した。なお、ワークショップの概要は次のとおりである。

#### 【ワークショップの概要】

ワークショップでは、「父親への支援の意義とその必要性」「全国の基礎自治体における父親支援の実施状況と課題の整理」「父親へのニーズ調査の結果」について話題提供を行い、その後、6つのグループに分かれて、父親への支援に関するワークシートを用いてグループディスカッションを行った。ワークショップには39人が参加した。ワークシートには「どのようなとき、どのようなところで父親と出会いますか？」「父親と出会った際、何か“父親支援”ができていますか？」「その接点や機会で、今後“父親”を支えるために何かできそうなことがありますか？」「その“できそうなこと”を実現させるためには、どんなサポート・環境があるとやりやすいですか？」の設問を設けた。グループディスカッションでは、次のような意見が出された。

- 父親に出会う場面として、妊娠届出や両親学級、家庭訪問、乳幼児健康診査などの他、児童虐待・DV事例への指導・支援場面にも出会う。
- 具体的な取組や工夫としては、両親学級において体験型の演習設定や話しやすい環境づくり（男女を分ける）といった内容があった。また、ハイリスク事例へのアプローチでは、指導時に男性職員も同席するといった工夫がなされていた。

- 父親同士の交流の機会を設けることの必要性は理解できるが、地方では母数が少なく市町村単位での開催が難しいことや、日中働いている父親への介入の難しさがあるため、都道府県や職域との協働を期待する。

#### 2. 手引き案の作成

第12回日本公衆衛生看護学会学術集会のワークショップの内容を踏まえて、父親を含めた家族全体を支援するという視点から母子保健事業を見直すことを目的とした研修の実施に係る手引き案を作成した。研修には、自治体の母子保健および子育て支援に関わる担当部署や様々な職種が参加することを想定し、最初に父親支援という用語を定義したうえで、子どもとその保護者および子育てを支援することの法的な根拠、自治体の責務等について整理した。その後、目的・目標の設定から対象者の明確化、内容の検討といった企画から始まり、研修の実施と評価に至るプロセスを含んだ構成とした。さらに、研修を実施することで、現状の母子保健事業を、ポピュレーションアプローチの視点から父親を含めた家族全体に働きかける仕組みへと見直すきっかけになることを期待しているため、研修の実施後に何らかのアクションにつながるように、組織内の合意形成や事業展開に向けた取り組みについても盛り込んだ。

#### 3. 内容の検討

作成した研修の手引き案を研究班のメンバー間で検討を行い、次のような意見が出された。

- 父親支援の現状を整理するにあたっては、母子保健や子育て支援の担当部署だけでなく、教育や医療機関からの想定されるため、立場の異なる様々な機関が活用しやすいワークシートを作成した方が良い。
- ワークシートを作成するにあたっては、様式だけを掲載するのではなく、具体的な記載内容を例示したのも掲載してはどうか。
- 実際の研修場面では、どのようにグループデ

ディスカッションを進めるのか、参加者に対して行う質問や問いかけが、より効果的な思考を促す行為として非常に重要であるので、具体的な質問内容を例示してはどうか。

(倫理面への配慮)

第12回日本公衆衛生看護学会学術集会のワークショップで用いたワークシートについては、研究目的、方法等を説明したうえで同意の得られたものを回収・分析に活用した。

### C. 研究結果

研修の手引き案の妥当性の検討を行い、修正したものを完成版とした。完成した研修の手引きは「研修の概要」「研修の前提」「研修の企画」「研修の実施」「研修の資材」で構成し、研修に活用しやすいようにグループディスカッションに用いるワークシートやその際の問いかけ例も掲載した。(別紙参照)

### D. 考察

健やか親子21(第2次)では、「こどもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」を基盤課題の一つに掲げ、「主体的に育児に関わっていると感じる父親の割合」を目標に設定している。しかし、研究班が2020年度に全国の自治体を対象に行った調査では、「主な対象を父親とした育児支援を実施した」のは54自治体(6.5%)に留まり、既存の母子保健事業内で実施している父親に対する育児支援についても、「特に実施していない」と回答したのは妊娠期の両親学級では29.4%、母子健康手帳交付時では30.0%、乳幼児健康診査時では80.5%となっており、父親に対して行われる公的な支援は少ない状況にある。そこで、本研究では現状の母子保健事業について、ポピュレーションアプローチの視点から父親を含めた家族全体に働きかける仕組みへと見直すための方法の一つとして自治体での職員向け研修に着目し、研修を実施する上での参考になるよう手引きを作成した。

来年度以降、本研修の手引きを国立成育医療センターのホームページで公開し広く周知する

とともに、研究班のメンバーが自治体支援を行う際の一つのツールとして使用することで活用を呼びかけることが必要であると考えられる。さらに、活用の結果についてフィードバックを受け、手引きをより効果的で活用しやすい形・内容に改善していく予定である。

### E. 結論

今年度は、現状の母子保健事業を、ポピュレーションアプローチの視点から父親を含めた家族全体に働きかける仕組みへと見直すきっかけとするための研修の手引き(名称「父親支援に関する専門職へのポピュレーションアプローチの視点からの研修とその資材開発」)を作成した。来年度以降、多くの自治体に活用いただくことで母子保健事業の内容を検討する機会としていただくとともに、本手引き自体をブラッシュアップし、完成度を高めていきたい。

### 謝辞

お忙しい中、ワークショップにご参加をくださいました自治体職員、教育機関等の皆様に御礼申し上げます。

### 引用文献

なし

### F. 研究発表

1. 論文発表
  - 1) 高木悦子, 小崎恭弘, 阿川勇太, 竹原健二. 全国地方自治体で実施されている父親を主な対象とするポピュレーションアプローチ事業の実施状況調査結果報告. 日本公衆衛生雑誌. 2023;70(8):483-494. (査読あり)
2. 学会発表
  - 1) 阿川勇太, 竹原健二, 高木悦子. 今考えたい、父親への支援の現状とこれから. 第12回公衆衛生看護学学会(小倉). 2024.

### G. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

別紙

**父親支援に関する  
専門職へのポピュレーションアプローチの視点からの  
研修とその資材開発**

令和5年度こども家庭科学研究費補助金  
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業

父親の子育て支援推進のためのプログラムの確立に向けた研究

研究代表者：竹原 健二

2024年3月 Ver. 1.0

## 【はじめに】

父親の育児の実施は、母親と比較して多くはないものの徐々に増えており、育児休業の取得率増加が示すように仕事と育児・家事の両立に取り組む父親は増えています。このような状況の中、メンタルヘルスに不調を抱える父親は、母親と同程度の割合で存在することが多くの調査で明らかになっています。しかし、自治体における母子保健活動は子どもとその母親を主な対象とされることが多く、父親に対して行われる公的な支援は少ない状況にあります。実際に、研究班が2020年度に全国の自治体を対象に行った調査では、「主な対象を父親とした育児支援を実施した」のは54自治体(6.5%)に留まり、既存の母子保健事業内で実施している父親に対する育児支援についても、「特に実施していない」と回答したのは妊娠期の両親学級では29.4%、母子健康手帳交付時では30.0%、乳幼児健康診査時では80.5%となっていました。

育児期における男女の就業率や母子保健事業への両親の参加状況の違いを考えると、母子保健事業において取り組まれる子育て支援の対象、つまり養育の主体を母親と捉えることは実態に即していると言えます。しかし、健やか親子21(第2次)では、「こどもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」を基盤課題の一つに掲げ、「主体的に育児に関わっていると感じる父親の割合」を目標に設定しています。このような課題の設定は、先述したような父親のメンタルヘルスに関する課題等を踏まえると、単に父親の育児への関わりを増やすという視点だけでなく、父親の健康を支援する、あるいは父親も支援の対象であることを意識し、父親を含めた家族全体の健康を支援するという考えを再認識する必要があるのかもしれない。

そこで研究班では、現状の母子保健事業について、ポピュレーションアプローチの視点から父親を含めた家族全体に働きかける仕組みへと見直すことで、父親の健康および育児に対する支援が充実すると考えました。その見直し方の一つとして、研修の実施を提案するとともに、その研修を実施するための手引きとなる本書を作成しました。本書は、研修の目的・目標の設定から対象者の明確化、内容の検討といった企画から始まり、研修の実施とその評価に至るプロセスを含んだ構成としています。また、すぐに研修を実施できるよう、研修における問いかけ(発問)例やワークシートも併せて掲載しています。実際の研修実施に際しては、研修の対象者や見直したい母子保健事業の種別等によって、研修の実施内容を抜粋して行うことや、ワークシートの改変、部分的に使用頂くこともできます。ぜひ、多くの自治体において、現在取り組んでおられる母子保健事業の見直しに活用して頂けると幸いです。

## 【目次】

<b>1. 研修の概要</b> .....	- 44 -
1) 目的 .....	- 44 -
2) 対象 .....	- 44 -
3) 全体像.....	- 44 -
<b>2. 研修の前提</b> .....	- 45 -
1) 父親支援の定義 .....	- 45 -
2) 法的根拠.....	- 45 -
(1) 子育て支援 .....	- 45 -
(2) 国・自治体の責務.....	- 45 -
(3) 父親支援の必要性.....	- 45 -
3) 父親支援が必要な現状とその意義.....	- 46 -
<b>3. 研修の企画</b> .....	- 47 -
1) 目的・目標.....	- 47 -
2) 対象者.....	- 47 -
3) 内容と方法 .....	- 47 -
4) 構成 .....	- 47 -
5) 評価 .....	- 48 -
<b>4. 研修の実施</b> .....	- 48 -
1) 目的・目標の確認と前提の共有.....	- 48 -
2) 現状の把握 .....	- 49 -
3) 課題の把握 .....	- 50 -
4) 優先順位および改善策の検討.....	- 51 -
5) 振り返りと全体での共有 .....	- 54 -
6) 組織内の合意形成.....	- 54 -
<b>5. 研修の資材</b> .....	- 54 -
1) 研修における問いかけ .....	- 54 -
2) ワークシート .....	- 56 -

## 1. 研修の概要

### 1) 目的

本研修は、父親を含めた家族全体を支援するという視点から母子保健事業を見直すことで、父親も含めた家族全体の健康を支援する家族保健について検討及び展開することを目的とする。

### 2) 対象

本研修は、自治体の母子保健および子育て支援に関わる担当部署や機関が行う職場内研修の一環として取り組まれることを想定している。

### 3) 全体像

本研修は、その目的・目標の設定から対象者の明確化、内容の検討といった企画から始まり、研修の実施と評価に至るプロセスを含んだ構成としている。また、この研修を実施することで、現状の母子保健事業を、ポピュレーションアプローチの視点から父親を含めた家族全体に働きかける仕組みへと見直すきっかけになることを期待しているため、研修の実施後に何らかのアクションにつながるように、組織内の合意形成や事業展開に向けた取り組みについても「4. 研修の実施」の項目において述べる（図1）。

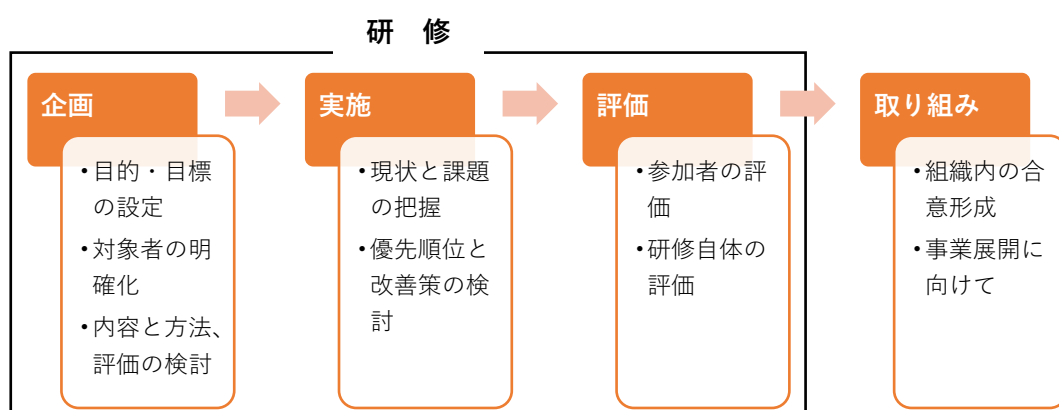


図1 研修の全体像



## 2. 研修の前提

本研修の前提として、父親支援という用語を定義したうえで、子どもとその保護者および子育てを支援することの法的な根拠、自治体の責務等について整理する。研修の実施にあたっては、研修を企画する者および参加者がこれらの用語の定義を共通の理解として共有しておくことが望まれる。

### 1) 父親支援の定義

父親（妊婦のパートナー含む）が家庭における父親としての役割を果たすために、父親の健康の保持増進および育児等を支援することを目的に実施している取り組みや活動とする。

### 2) 法的根拠

#### (1) 子育て支援

【子ども・子育て支援法】は、子ども一人ひとりが健やかに成長することができる社会の実現に寄与することを目的に制定されている。本法において、子ども・子育て支援とは、全ての子どもの健やかな成長のために適切な環境が等しく確保されるよう、国若しくは地方公共団体又は地域における子育ての支援を行う者が実施する**子ども及び子どもの保護者に対する支援**をいう。

#### (2) 国・自治体の責務

【成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律（以下、成育基本法）】では、保護者の責務等（第6条）として、父母その他の保護者は、その保護する子どもがその成育過程の各段階において必要な**成育医療等の提供を受けられるように配慮する**よう努めなければならないとしている。また、国及び地方公共団体は保護者に対し、**保護者の責務が果たされるように、保護者の社会からの孤立防止や不安の緩和、虐待の予防に向けた必要な支援や施策化を行うもの**としている。

#### (3) 父親支援の必要性

【成育基本法】の第11条における「成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針」では、成育医療等の現状と課題の中で「父親の孤立」を取り上げ、母親を支えるという役割が期待される**父親についても、支援される立場にあり**、父親も含めて出産や育児に関する相談支援の対象とするなど、**父親の孤立を防ぐ対策を講ずることが急務**であるとしている。

また、成育過程にある者等に対する保健の項では、「子育てやこどもを育てる家庭への支援」として、妊婦と父親になる男性が共に、産前・産後の女性の心身の変化を含めた妊娠・出産への理解を深め、共に子育てに取り組めるよう、地方公共団体における両親共に参加しやすい日時設定等に配慮した両親学級等の取組を推進する。そして、男性の産後うつ等に対して子育て経験のある男性によるピアサポー

トの実施等、**出産や子育てに悩む父親に対する支援**を推進することとしている。

3) 父親支援が必要な現状とその意義

子どもおよび子どもを養育する保護者である父親も母子保健の対象として再認識し、父親に対しても育児支援をすることが必要な現状とその意義として次のような報告がある。

【父親支援が必要な現状】

- 父親自身の Wellbeing  
産後 1 年間において「産後うつリスクあり」と判定される父親の発生頻度は 11.0%である (Takehara et al.,2020)。

【父親支援の意義】

- 子どもの健やかな育ちの促進  
母親が父親の積極的な育児参加を認知している場合、子どもの健康や発達 (怪我や肥満の予防) に良い影響を及ぼしている可能性が示唆された (Fujiwara et al.,2010 Sato et al.,2020)。  
乳児期における父親の積極的な育児への関わりは、子どもが 16 歳時点での心理的ウェルビーイングの低下のリスクを減らす可能性が示唆された (Kato et al.,2023)。
- 母親の心身の不調に対する効果  
母親が父親の積極的な育児参加を認知している場合、母親の育児負担感が低く、幸福度が高い傾向がみられる (明野ら,2010;森永ら,2015;鍋島ら,2015;熊野ら,2017;池田ら,2018)。
- 企業の組織変革の契機  
末子が未就学児の子どもを持つ父親の 69%が 10 時間/日以上を「仕事関連時間」に費やしている (大塚ら,2021)。
- 少子化への対応  
父親の積極的な育児参加は、第二子や第三子の生まれやすさに関連していた (加藤ら,2018)。

出典：国立研究開発法人 国立成育医療研究センター：研究班 3 年間集大成シンポジウム「父親を取り巻く環境と父親支援のあり方」事前公開資料, [https://www.ncchd.go.jp/scholar/research/section/policy/project/01\\_seika.html](https://www.ncchd.go.jp/scholar/research/section/policy/project/01_seika.html) (2024 年 3 月 13 日閲覧)

### 3. 研修の企画

#### 1) 目的・目標

研修の内容や方法は、父親支援に関する自治体の現状に対応したものを設定すべきである。すでに父親支援に積極的に取り組んでいる自治体や、成育医療等基本方針に基づく計画に、課題として掲げている自治体などおかれている状況は様々であるため、対象となる自治体の状況に合わせて研修に取り組むことが望ましい。

研修の目的は、各自治体において父親支援がどのように進展することが望ましいのかを表し、その目的を達成するための目標として、対象者の意識や行動の変化などを設定する。なお、この目的・目標は研修の前段に参加者全員で共有することが望ましい。

#### 2) 対象者

担当部署や職種に関わらず、広く父親に接する機会のある部署や機関から様々な職種が参加することが望ましい。また、同一の自治体内の部署や機関だけでなく、様々な自治体の職員・職種が参加することで、自組織の取り組みを客観的に捉えることができ、さらに自組織にはない新たなアイデアを得る機会になることが期待できる。

#### 3) 内容と方法

本研修は新たな知見を得る知識伝達型の研修ではなく、対象者自らが課題を発見し、主体的に課題に対する解決策を考える課題解決を目的とした参加型の研修を目指している。そのため、シンクペアシェア（think pair share）やグループディスカッションなどの方法を用い、対象者が主体的・能動的に研修に参加することを求める。

#### 4) 構成

物事を相手にわかりやすく伝えるための方法として、伝えたい内容を「起承転結」や「序破急」などで構成する方法がある。研修についても同様に、内容の順序性を吟味することによって、参加者に内容の理解を促し、目的・目標の達成に向けて効果的な研修を実施することができる。

本研修では全体を「導入」「展開」「まとめ」に構成した。「導入」では、参加者と研修の目的や目標を確認し、研修の準備性を整えるために前提となる知識（成育基本法の説明や各自治体における父親の育児の実態など）を共有することとした。また「展開」では、導入で得た知見を踏まえて現状を振り返ることで課題を抽出し、改善策を検討することとした。最後に「まとめ」では、本研修の目的・目標が達成できたのかを全体で確認するとともに、研修を踏まえた実践への展開に移行するきっかけとした。これらの研修の構成と具体的な内容については、「4. 研修の実施」の項で説明する。

## 5) 評価

研修の評価には大きく2つの側面「参加者個人の評価」「研修自体の評価」がある。「参加者個人の評価」は研修の目標が達成できたか、「研修自体の評価」は参加者の目標達成度を踏まえて、研修のシステム・設計を評価する。評価の視点としては、ストラクチャー（構造）、プロセス（過程）、アウトプット（実施量）、アウトカム（結果）がある。ストラクチャーは研修を実施するための仕組みや体制などを評価する視点で、プロセスは研修の目的や目標の達成に向けた過程（手順）や実施状況を評価する。アウトプットは研修の実施量や予定していた参加者数のうち、どの程度参加が得られたのかを示す。アウトカムは研修の目的・目標の達成度や成果の数値目標に対する評価である。これら評価の視点例を表1に示す。この評価を実施する方法としては、参加者のワークシートへの記述量・内容や研修への参加の程度（研修中の発言）、省察記録、アンケートなどが考えられる。これらの評価に関する視点や方法については、研修の企画段階で設定しておき、研修中および終了後に適切な方法で評価できることが重要である。

表1 研修の評価の視点（例）

	参加者個人の評価	研修自体の評価
ストラクチャー		研修への参加しやすさ（日時・時間・方法） 研修の環境（視聴覚機材・座席）
プロセス	知識の獲得 研修内容の満足度	研修に用いた資料の有用性，対象者の選定やグループ分け，ファシリテーターの進行
アウトプット		研修への参加者数，研修に参加した職種
アウトカム	課題解決に向けた意識の変容	

## 4. 研修の実施

本研修は、表2のように「導入」「展開」「まとめ」で構成し、参加者の集中力の維持を考慮して90分でスケジュールリングした。この時間の設定はあくまで例示であり、実際は参加者数や実施する内容に応じた調整が必要である。各テーマについて以下に記述する。

### 1) 目的・目標の確認と前提の共有

研修の導入では、研修に参加することで何を達成することができるのかという目的・目標を参加者とともに確認し、その目標を達成するための行程を共有する。また、次の個人あるいはグループでの検討をするための前提となる知識を参加者間で揃えておくために、「子育て支援」などの用語の定義や、子育てを取り巻く法的な背景、各自

自治体または国における父親の育児の実態といった前提条件を統一しておくことも重要である。特に、参加者の背景（所属する自治体や職種など）が異なる場合は、言葉の捉え方や職種の役割認識の違いによってディスカッションが深まらないこともあるため、企画段階からどのような事柄を前提条件として共有するのか設定しておく必要がある。

## 2) 現状の把握

自治体における父親支援の現状として、担当部署・ライフステージ（妊娠期・出産・育児期）別に、父親にアプローチする機会としてどのようなものがあるのか、表3の【ワークシート1】に記載する。なお、父親支援の現状については、支援者が父親にアプローチする機会や事業、取り組みの場を記載する。この際、直接対面する機会もあれば、母親から情報を把握するような間接的に父親と会う機会もあるが、ここでは、そのどちらの場合も含む。また、研修に参加できる部署・機関・職種等によってもその機会は異なると考えられる。したがって、研修を企画する段階で、研修の目的に合わせて対象を吟味するとともに、グループディスカッションのメンバー構成や使用するシート・資料を準備する必要がある。

表2 研修のスケジュール（例）

構成	時間	テーマ	内容	資材など
導入	5分	目的・目標の確認	■ 研修の目的・目標の説明	スライド
	10分	前提の共有	■ 成育基本法の説明 ■ 本市における父親の育児の実態	配付資料
展開	10分	現状の把握	■ 父親にアプローチする機会・接点（シンクペアシェア：自己紹介を兼ねる）	ワークシート1
	10分	課題の把握	■ 現状の支援内容や改善すべき課題（シンクペアシェア）	ワークシート2
	10分	優先順位の検討	■ 取り組むべき課題の優先順位の検討（グループディスカッション）	ワークシート2
	30分	改善策の検討	■ 課題に対する改善策の検討（シンクペアシェア）	ワークシート3
まとめ	5分	振り返り	■ グループで出された意見のまとめ（グループディスカッション）	配付資料
	10分	全体での共有	■ グループ内でまとめた意見の発表	ホワイトボード

表3 【ワークシート1】担当部署・ライフステージ別の父親支援の現状（例）

担当部署	機会 / 事業 / 取り組みの場			
	妊娠期	出産	育児期	就学以降
母子保健機関	妊娠届出 母子健康手帳交付 両親学級 妊婦訪問	新生児訪問指導 産後ケア事業	乳幼児健康診査 育児教室・講座 育児相談 家庭訪問	
子育て支援機関		乳児家庭 全戸訪問事業	育児講座 子育てサークル	
保育・教育機関 保育所・園、幼稚園 こども園 小・中・高等学校			普段の保育 参観や懇談	参観や懇談
医療機関	妊婦健診 両親学級	分娩・入院	乳幼児健康診査 予防接種	

### 3) 課題の把握

表3の【ワークシート1】を用いて担当部署・ライフステージ別に挙げた父親にアプローチする機会のうち、実際に自担当部署が挙げた機会における課題について、表4の【ワークシート2】を用いて整理する。この時の課題は一つでも複数でもかまわないが、その内容を具体的に記載することが重要である。整理するにあたっては、どのような機会（事業名等）に、誰に対して、どのような方法/内容で支援をしているのか、また改善すべき課題は何かを明らかにする。特に、支援の方法/内容については、詳細な取り組みを記述することで次の改善策の検討が行いやすくなる。

この課題の抽出段階では、課題の解決可能性や対策については考慮せず、考え得る課題を出し尽くすことが大切である。また、個人で取り組んだのち、グループでも共有することで、この課題をより明確に捉えることができ、次の課題解決につなげることができる。

表 4-1 【ワークシート 2】父親支援に関する具体的な内容と課題（例：乳幼児健康診査）

機 会	4 か月児健康診査
対 象	4 か月児の父親
方 法 内 容	問診票にて父親を含む家族の健康状態を把握する。 問診票は母親が記載していると考えられる。 質問内容はすべての乳幼児健診において共通で、「同居するご家族の健康状態を教えてください。」と問い、「健康・不調（具体的な内容： ）」と回答する形式である。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>「父親を含めた家族」と記載しているため、父親に限定した状態の把握が困難である。</li> <li>父親自身の主観的な健康状態が明らかになっていない。</li> <li>健康状態が不良であったとしても、状態に関する詳細な聞き取りを行うだけで、父親に対する直接的な支援をしていない。</li> <li>収集した情報を整理し、集団あるいは地域の健康状態として評価していない。</li> </ul>

表 4-2 【ワークシート 2】父親支援に関する具体的な内容と課題（例：父親向け育児講座）

機 会	父親向け育児講座
対 象	該当月年齢児の父親
方 法 内 容	年に 1 回、父親向けの子育て講座を子育て支援センターと共催している。 対象は、未就学児の父親（定員 20 人）で、子どもの同伴は不可としている。 周知方法は、広報誌・ホームページへの掲載、公的施設へのポスター及びチラシの設置としている。 内容は、父親役割や子どもとの遊び方、母親とのコミュニケーションに関する講話と、父親同士のグループディスカッションをしている。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事をしている父親も参加しやすいように土日で開催しているが、応募が定員の半数にも満たない。</li> <li>乳児の父親の参加が比較的多く、父親同士の共通点が多いと推察されるが、グループによってはディスカッションが盛り上がらない。</li> <li>開催をしても、ネットワークの形成にはつながらない。</li> </ul>

#### 4) 優先順位および改善策の検討

##### (1) 優先順位の検討

表 4 の【ワークシート 2】を用いて明確にした「父親にアプローチする機会」とその課題について、どのような改善策が考えられるか、表 5 の【ワークシート 3】を用いて検討する。この改善策を検討するにあたっては、特に複数の「父親にアプローチ

する機会」と課題が抽出されている場合に、どの課題解決に向けた検討をするのか、優先順位を検討する必要がある。優先順位をつける際の考え方の一つに「重要度と優先度」がある。「重要度」は社会的要請の高さと言える。各自治体の総合計画や成育医療等基本方針に基づく計画の重点事項に該当するなど、すでに自治体が行い組みむべき課題として設定している場合に重要度が高い。また、その課題が解決できなかった時の影響度の大きさとして捉えることも可能である。一方、「優先度」は緊急性と同義で、すぐに対策を講じる必要があるかどうかと言える。例えば、解決すべき問題として顕在化している場合や、解決に向けて時間的な制約がある場合などがこれに該当する。このような優先順位の検討を経て、「父親にアプローチする機会」と解決すべき課題を表5の【ワークシート3】を用いて明確にする。

## (2) 改善策の検討

表5の【ワークシート3】を用いて明確にした「父親にアプローチする機会」と解決すべき課題について、どのような改善策が考えられるかを検討する。この課題の改善策の抽出段階では、課題解決の実現可能性については考慮せず、考え得る方策を出し尽くすことが大切である。また、個人で行い組みんだのち、グループで共有・検討することで、この課題解決の方策をより明確かつ具体的にすることができ、課題解決の実現につながることを想定される。この改善策には、その詳細を具体的に記述することが重要であり、「いつから実施するのか（時期）」「だれが実施するのか（主体）」「どのような内容を行うのか（内容）」「成果はどのように評価するのか（評価）」などを明確にしておきたい。また、考えた改善策を遂行するために必要なサポートについても記述するとより実行に結びつきやすい。「必要なサポート」は多岐にわたり、自組織内の他部署・機関だけでなく、民間の子ども・子育て関連施設や商業施設、大学・研究機関、職域保健、地域の自主グループなどが該当すると考えられる。なお、「短期的な改善策」とは概ね6か月以内に取り組みそう、あるいは予算化を必要としない方策が想定される。一方、「長期的な改善策」とは概ね6か月以上の方策が想定される。

表5-1 【ワークシート3】父親支援に関する課題の改善策（例：乳幼児健康診査）

機 会	4か月児健康診査
対 象	4か月児の父親
方 法 内 容	問診票にて父親を含む家族の健康状態を把握する。 問診票は母親が記載していると考えられる。 質問内容はすべての乳幼児健診において共通で、「同居するご家族の健康状態を教えてください。」と問い、「健康・不調（具体的な内容： ）」と回答する形式である。



<b>課 題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「父親を含めた家族」と記載しているため、父親に限定した状態の把握が困難である。</li> <li>父親自身の主観的な健康状態が明らかになっていない。</li> </ul>
<b>短期的な改善策</b> <b>改善のために</b> <b>必要なサポート</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4か月児健診における問診項目に、父親の健康状態を把握する内容を入れる。</li> <li>健康状態だけでなく、仕事や育児・家事に関する内容も含める。</li> <li>子どもの月年齢別違いなどを比較するために、他の乳幼児健診にも同様の項目を入れる。</li> <li>どのような項目を入れれば、父親の仕事や育児・家事の取り組みを評価できるかを検討する。(大学や研究機関)</li> </ul>
<b>長期的な改善策</b> <b>改善のために</b> <b>必要なサポート</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>父親の健康状態や育児・家事、仕事等の情報を収集し、実態として属性別(地域・年齢・家族構成など)の特徴を把握するとともに、成育医療等基本方針に基づく計画にも反映させる。</li> </ul>

表 5-2 【ワークシート 3】 父親支援に関する課題の改善策 (例：父親向け育児講座)

<b>機 会</b>	父親向け育児講座
<b>対 象</b>	該当月年齢児の父親
<b>方 法</b> <b>内 容</b>	<p>年に1回、父親向けの子育て講座を子育て支援センターと共催している。</p> <p>対象は、未就学児の父親(定員20人)で、子どもの同伴は不可としている。</p> <p>周知方法は、広報誌・ホームページへの掲載、公的施設へのポスター及びチラシの設置としている。</p> <p>内容は、父親役割や子どもとの遊び方、母親とのコミュニケーションに関する講話と、父親同士のグループディスカッションをしている。</p>
<b>課 題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事をしている父親も参加しやすいように土日に開催しているが、応募が定員の半数にも満たない。</li> </ul>
<b>短期的な改善策</b> <b>改善のために</b> <b>必要なサポート</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象を明確にし、ターゲットを限定する。(乳児の父親、1-2歳児の父親など)</li> <li>対象に直接、届くような広報方法を選択する。(乳幼児健診時のアプローチや保育所を通じた広報など)</li> <li>対象のニーズに合わせた内容を検討する。</li> <li>関連機関と連携して企画(対象・広報・内容など)を検討する。</li> </ul>
<b>長期的な改善策</b> <b>改善のために</b> <b>必要なサポート</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の声を次回の講座の内容や広報活動に活用する。</li> <li>目的に合わせた内容・方法になっているのか企画を再検討し、実施の方法や内容(子ども同伴の体験型、知識伝達型のオンデマンドなど)を決定する。</li> </ul>

#### 5) 振り返りと全体での共有

「振り返り」では、グループで出された意見を参加者同士で確認し、「全体での共有」に向けて意見をまとめる作業を行う。その後、各グループが発表し、「全体での共有」を行う。このような内容の振り返りは、どのような意見が出されたのかをあらためて確認することで、その内容を客観視し、課題に対する解決策に対する強み・弱みを把握する機会になる。また、グループあるいは研修全体にファシリテーター役割を設定できた場合には、「全体での共有」において課題や解決策における背景や工夫点、実現可能性などを質問することで、より効果的な研修になることが期待される。つまり、この過程はリフレクションの一つであり、本研修をとおして得た経験を具体的な取り組みにつなぐ思考へと導く過程である。特に、他者との対話により行うリフレクションは、自分だけでは思いつかない新たな気づきを得られる可能性がある。さらに、他職種の意見や考えは自分の考えを広げることにもつながる。なお、ファシリテーターが行う質問の例については「5. 研修の資材」の項にて示す。

#### 6) 組織内の合意形成

研修によって得られた課題と解決策のうち、実現可能性が高いものについては、その実現に向けた取り組みを進めたい。なお、実現可能性の判断としては、「現実的であるか」「必要性や意義を理解できるか」「目標の設定が可能か」などを考慮しながら組織として決定がなされる。また、自治体での実施においては、組織としての判断(決裁)や内容によっては予算化の必要性が伴う。そのため、①倫理的な問題の有無(公平・公正であること)、②公的機関としての実施の意義、③予算化の必要性については、必要な資料を準備し別途検討する必要がある。

### 5. 研修の資材

#### 1) 研修における問いかけ

ファシリテーターが参加者に対して行う質問や問いかけは、より効果的な思考を促す行為として非常に重要である。特に、本研修は知識伝達型の研修ではなく課題解決を目的とした参加型の研修であるため、参加者の思考を焦点化させるということにおいて、適切な問いかけをすることが大切になる。そのため、ファシリテーターは多種多様な問いかけを準備し、適切なタイミングで明確な問いかけをする必要がある。また、研修によっては対象となる職種が多様で、所属する組織も異なることがあるため、複雑で曖昧な問いや、複数の解釈が可能となる問いは避けなければならない。本研修は課題の抽出と解決策の検討を主目的としているため、問いかけを準備する際には、①問題共有、②原因探索、③優先課題の決定、④解決策の立案を意識し、課題解決につながる問いかけを考えておきたい。なお、表6には、本研修の資材であるワークシート1~3を用いた場合に主となる問いかけと、参加者の思考を導く補足コメントの例を示す。

表6 研修における問いかけ（例）

問いかけ	用いる資料
<p>【問いかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• どのような時に、どのようなところで父親と出会いますか。</li> </ul> <p>【補足コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 直接、父親と会わないけれども、間接的に父親に関する情報を得られる場面でもかまいません。</li> <li>• 他の参加者の意見を聞いて気づいたことがあれば書き加えてください。</li> </ul>	ワークシート1
<p>【問いかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 父親と出会った際に、どのような「父親支援」をしていますか。</li> <li>• その「父親支援」における課題について、どのようなものがありますか。</li> </ul> <p>【補足コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「これも父親支援と言えるのかな!？」と自信がなかったり、少々不安なことでもかまいません。</li> <li>• その「父親支援」をより充実させるための課題でもかまいません。</li> <li>• 父親側の立場になった際に気づくことはありますか。</li> </ul>	ワークシート2
<p>【問いかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• その「父親支援」における課題について、優先して解決すべき課題は何だと考えられますか。</li> <li>• 優先順位の高い「父親支援」における課題に対して、どのような改善策が考えられますか。</li> <li>• その改善策を実現させるためには、どのようなサポートが必要ですか。</li> </ul> <p>【補足コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事業のような大きなことでも、明日からでもすぐに取り組みそうなことでも、どんなことでもかまいません。</li> <li>• その課題が起こった背景や原因は何だと考えますか。</li> <li>• その課題に対するゴールは何だと考えますか。</li> <li>• 似たような課題に遭遇したことはありますか。その時はどのように対応されましたか。</li> <li>• あなたの職種の役割は何だと思えますか。</li> <li>• 「サポート」は機関や人でなくてもかまいません。必要だと考える制度や情報・知識なども含みます。</li> </ul>	ワークシート3

2) ワークシート

【ワークシート1】 担当部署・ライフステージ別の父親支援の現状

担当部署	機会 / 事業 / 取り組み			
	妊娠期	出産	育児期	就学以降

【ワークシート2】 父親支援に関する具体的な内容と課題例

機会	
対象	
方法 内容	
課題	

【ワークシート3】 父親支援に関する課題の改善策

機会	
対象	
方法 内容	
課題	
短期的な改善策  改善のために 必要なサポート	
長期的な改善策  改善のために 必要なサポート	

